

グリーンテクノバンク・シンポジウム in そらち

「地球温暖化と北海道農業」－温暖化と向き合い、持続する農業をめざして－ 開催要領

趣旨 明治の開拓以来、寒さとの闘いを続けてきた北海道農業は、地球温暖化という現実を目前にして新たな局面を迎えていると考えられます。自然環境を生産の現場としている農業は、地球温暖化の影響を最も受けやすい分野の一つにあげられています。

農業は総合産業です。農地の造成・改良、利水と防災、施設の建設と維持・管理、各種機械の開発、貯蔵と流通および加工など、多岐にわたる産業分野が一体となって農産物の安定的な生産と利用を支えています。世界的な食糧危機が懸念される現在、気候変動に適応すると同時に温暖化の進行を妨げる技術を開発・普及させ、未来に持続する農業を構築して自給率の向上を図ることが、日本の当面する最も重要な課題の一つです。そのためには、農業分野のみならずあらゆる分野・業種を横断した情報交換と連携が不可欠です。

以上のことから、シンポジウムをとおして温暖化の現状と予測、および温暖化の防止と適応に必要とされる技術について情報を共有し、開発に向けて分野間の連携の実現をめざします。

開催日時 2008年11月13日(木)、13時～16時30分

開催場所 岩見沢市文化センター(まなみーる)中ホール
(岩見沢市9条西4丁目1番地1 電話 0126-22-4233)

予定参加人数等 250名(参加費無料/参加対象:農業者、農業関連の組織・団体等、一般)

主催 NPO 法人グリーンテクノバンク

共催 北海道農業研究センター、北海道立中央農業試験場、日本気象協会北海道支社
生物系特定産業技術研究支援センター

後援 北海道開発局、空知支庁、岩見沢市、北海道大学大学院農学研究院、北海道岩見沢農業高校
北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会
岩見沢新聞社、日本農業新聞北海道支所、北海道新聞社、北海道協同組合通信社
HBC 北海道放送、NHK 札幌放送局、札幌テレビ放送、Tvh テレビ北海道

次第

(1) 開会挨拶 (13:00-13:10)

(2) 講演 (13:15-15:00)

座長 廣田 知良(北海道農業研究センター寒地温暖化研究チーム長)

1) 道内の気象官署およびアメダスによるデータでみた温暖化の状況

水島 俊一(日本気象協会北海道支社参与) (13:15-13:40)

2) 地球温暖化と北海道農業のゆくえ

大崎 満(北海道大学大学院農学研究院教授) (13:40-14:10)

3) 北海道農業における技術的対応の方向

志賀 弘行(道立中央農業試験場環境保全部長) (14:10-14:35)

4) 冷熱源を活用した各種機器・システムについて ～北海道の冬の寒気を生かして～

津川 博(田尻機械工業(株)常務取締役) (14:35-15:00)

休憩 (15:00-15:15)

(3) 総合討論 (15:15-16:25) 「温暖化と向き合い、持続する農業をめざして」

座長 山崎 孝治(北海道大学大学院地球環境科学研究院教授)

パネリスト 講演者、座長、農業者、農協関係者など

(4) 閉会挨拶 (～16:30)

交流会 (17:00-19:00)